対象森林の現況写真の撮影について

１：各エリアごとに、以下の写真を撮影すること。

森林の概要がわかる写真　　　外部から1枚　内部から1枚

　　タイプ区分が判断できる写真　２枚以上

２：タイプ区分の判断写真は以下の留意する。

（１）地域環境保全（里山林保全）タイプ　（スギ・ヒノキ林、雑木林、その他）

　それぞれの樹種ごとの生育状況、混み具合、林床植生の繁茂具合などを撮影する。

（２）地域環境保全（侵入竹除去）タイプ　（竹林が他の樹種に侵入している）

　竹林が他の樹種からなる森林に侵入し、圧迫している状況を撮影する。

　アズマネザサ（しの竹）に関しては、著しく繁茂している状況が必要となる。

（３）地域環境保全（竹林整備）タイプ　　（過密で荒廃した竹林）

　竹林が過密になり荒廃している状況を撮影する。

（４）森林資源利用タイプ　（人工林、雑木林）

　　一定の蓄積があり、伐採搬出できる状況であることを判断できる状況を撮影する。

（５）森林機能強化（作業道）

作業道を入れる箇所を、５０mに１か所撮影する。

（６）関係人口創出・維持タイプ

　　申請内容を説明、補完する写真とする。

３：写真撮影位置

撮影位置を記入した図を作成する。

位置図・活動計画図の作成方法について

＜位置図＞

縮尺：１／2万5千～１／5万地形図を原則とするが、縮尺が合致すれば道路地図、ネット地図等のコピーで可とする。

記載内容：近隣の主要国道、鉄道、学校など目標となるものを含む範囲とし、併せて方位、縮尺、申請箇所などを明記する。

＜活動計画図＞

地番記載のある図面を利用して、事業実施箇所のエリア別、活動タイプ別、年度別の関係がわかるよう調整し、必ず凡例を記載すること。（記載例を参照）

森林機能強化タイプにおいては、改修を実施する路網や鳥獣防止柵を図示すること。

上記内容が明確に記載できる縮尺とする。面積測定用の図面と縮尺が異なってもかまわない。

＜活動計画図（記載例）＞



凡例を入れること

（下記参照）

１２

３３

３２－１

作業道は１１、〇〇、〇〇・・・・・・・の7筆　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　縮尺　1／２５００

＜凡例（記載例）＞

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| エリア | 地番 | 面積・  延長 | 実施する活動タイプ | | | 長期にわたり  手入れがされていなかったと考えられる里山林 |
| 令和３年度 | ４年度 | ５年度 |
| エリア１ | 32－1 | 1.1ha | 里山林保全 | 里山林保全 | 里山林保全 |  |
| エリア２ | 33 | 0.9ha | 竹林整備 | 竹林整備 | 竹林整備 |  |
| エリア３ | 12 | 2.3ha |  | 里山林保全 | 里山林保全 | ○ |
| 作業道 | 11他 | 200ｍ | 森林機能強化 |  |  |  |

（注）

１：令和３年度から開始し、2年目の箇所である。

２：エリア１は里山林保全で、エリア２は竹林整備で3年間実施する活動計画となっている。

３：エリア３はアクセスが困難な状況であるため、令和３年に作業道を整備した後、令和４年度から里山林保全を2年間実施する予定となっている。